

概要版

平成31年4月

杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム

# ぐんぐん伸びる すぎなみの子

～かかわる つながる ふかまる育ちと学び～

 杉並区教育委員会



# ぐんぐん伸びる すぎなみの子

～かかわる つながる ふかまる育ちと学び～

杉並区教育委員会では、「杉並区教育ビジョン2012」に基づき、一人一人の発達や学びを切れ目のないようにつなげ、学びの成果を確実に受け止め、次の段階で一層発展できるように、平成26年に「杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム ぐんぐん伸びるすぎなみの子」を発行し、就学前教育と小学校教育の円滑な接続を目指した教育及び保育を重点に進めています。

その後の幼稚園教育要領・保育所保育指針等の改訂を受けて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた連携を工夫することにより、さらに円滑な接続が図られるよう本リーフレットを作成しました。

## 幼保小接続期カリキュラム

子どもの発達や学びは連続しているものです。就学前教育施設では幼児期にふさわしい教育・保育を行うことが小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮する必要があり、小学校では幼児期における遊びを通じた総合的な学びを、各教科等における学習へと円滑に移行できるよう工夫することが大切です。互いの教育内容や指導方法の違いや共通点について理解を深め、それぞれが指導方法を工夫するなど、子どもの発達性を踏まえた教育及び保育の充実を図っていく必要があります。



5歳児10月～1年生7月  
**接続期**



## 幼保小連携プログラム

杉並区では全小学校が幼保小連携を推進しています。

就学前教育施設から小学校へと変わる環境に対し、幼児が自分の力で適応し、滑らかに移行することを目指して「幼保小連携の4方策」に取り組んでいます。幼稚園教諭・保育士と小学校教員との意見交換や合同研修、交流活動等の取組を通して相互理解を深め、連携を図っています。

### 幼保小連携の4方策



### 幼保小連携の4方策の充実のために

#### 1 幼保小連携の推進体制を組織する

- 幼保小連携の必要性について全職員の共通理解を図る。
- 連絡調整の機能を発揮しながら、組織的・計画的に進める窓口となる担当者を園務・校務分掌に位置付ける。
- 単発的なイベントではなく、継続的・発展的な実施となるように、教育課程等へ位置付け、年間計画を立案する。
- 園・学校便りなどにより、幼保小連携の取組について家庭・地域に情報発信して理解啓発を図る。

#### 2 共に爽りのある交流活動を実施する

- 幼児と児童の双方にとって意義のある活動となるよう、ねらいを明確にした計画を立案する。
- 交流活動が幼児・児童理解の場となるよう工夫する。
- 幼児が就学への期待をもつ取組では、小学校との直接的な交流活動ばかりではなく、散歩の途中で学校に寄ったり、チャイムの音を聞いたりするなど、様々な方法で進める。

#### 3 相互の教育内容や指導方法等を理解する

- 保育参観や授業参観等、実際の子どもの姿を見ることを通して話し合う。
- 合同研修会等の機会をもち、相互の教育内容や指導方法等の違いや共通点、よさについて話し合う。

# 1 幼稚園教諭・保育士と小学校教員の連携

## ～相互理解と指導の接続を図る連絡会や合同研修会等～

小学校の通学区域を目安に、就学前教育施設と小学校が連携を図ります。双方が果たすべき役割を再認識しながら、子どもの発達を長期的な視点でとらえ、教育内容についての相互理解を基に、それぞれの指導の改善と充実を図ります。

### 年度当初の連絡会

- 連絡会の開催趣旨を明確にし、就学前教育施設と小学校の幼保小連携担当者を中心に幼稚園教諭・保育士と小学校教員が話し合い、1年間の交流活動や合同研修会等の内容や進め方について見通しをもつ。

#### 協議内容例

- ・『幼保小連携全体計画』や『幼保小連携年間計画』の共有
- ・交流活動のねらいと内容の明確化
- ・園や小学校で計画されている参観日や公開日の情報交換
- ・スタートカリキュラムの情報交換 等



### 保育参観や授業参観等を基にした合同研修会

- 小学校教員の保育参観や幼稚園教諭・保育士の授業参観等を実施し、実際の子どもの姿を見ることを通して、発達に応じた指導法について相互理解を図る。
- 幼稚園教諭・保育士と小学校教員との意見交換を通して、幼児期の発達の過程や幼児教育についての理解を深め、子どもの発達や学びの連続性を踏まえたスタートカリキュラムの工夫・改善を図る。

#### 研修内容例

- ・子どもの生活や学びの様子の把握
- ・『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を手掛かりにした接続期の子ども姿の理解
- ・園の造形表現や運動遊び、小学校の図画工作科や生活科等の教材研究を通した双方の教育活動の理解 等



### 講師を招いての合同研修会

- 小学校が主体となり、近隣の就学前教育施設と合同で研修会を開催し、幼稚園教諭・保育士と小学校教員が幼保小連携について学ぶ。

#### 協議内容例

- ・幼児教育から小学校教育へのスムーズな移行の在り方
- ・『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の共有
- ・幼児教育を踏まえた柔軟な対応を考えたスタートカリキュラムの編成の工夫 等



### 特別な配慮を要する子どもへの支援と情報共有

- 就業前教育施設と小学校の役割を再認識し、就学前教育施設が蓄積してきた支援の方策を小学校へつなぐ。

#### 就学前教育施設

- ・幼稚園教諭・保育士と保護者とが情報を交換・共有しながら、小学校への円滑な引継ぎを目指します。
- ・その幼児にとって「必要かつ効果的な支援や配慮が可能な教育環境を見付けていきましょう」という姿勢で、保護者を支えていくことが大切です。

#### 小学校

- ・就学時健康診断から入学式までが、特別支援教育に関わる校内体制づくりや、就学予定児童の情報の引継ぎ等を行う期間となります。特別支援教育コーディネーターを中心に取り組んでいきましょう。

杉並区教育委員会が開催する「幼保小連携教育研修会」および「幼保小連携担当者連絡会」には小学校教員と幼稚園教諭・保育士が参加しています。こうした機会も合同で研修する場となります。

# 幼保小連携の4方策

2

## 幼児と児童の交流活動

### ～幼児と児童の双方にとって意義のある交流活動～

交流活動を通して幼児には小学校に対する安心感が芽生えます。学校生活に対する楽しいイメージが形成され、就学への期待も膨らんでいきます。児童にとっても、幼児に合わせて活動を考えたり工夫したりすることで、相手の立場を考えて行動することを学び、自分の成長を感じる機会となります。交流活動の計画にあたっては、互いのねらいや活動内容について、丁寧に打ち合わせを行い幼稚園教諭・保育士と小学校教員との連携を図ります。

### 12月下旬 5歳児と5年生との交流活動の事例

	幼児	児童
活動名	お兄さんお姉さんと遊ぼう	教えてあげよう・一緒に遊ぼう(総合的な学習の時間)
ねらい	5年生と触れ合い、親しみや憧れの気持ちをもつ。	幼児との関わりを通して思いやりの心や態度を養う。



5年生との出会いは、幼児が安心できるように配慮して、園で行うことも効果的です。



小学校体育館で幼児は5年生に迎えられ、5年生が考えてくれた遊びを第1回目と同じグループで行います。出会いの場面はお互いの気持ちがほぐれるように導入を工夫します。



「どう言えば小さい子に伝わるのかな」5年生は考えながら声を掛けたり手を添えたりして、幼児と一緒にけん玉をつくります。



「これでいいの?」「そうそう、上手に貼れたね」できあがったけん玉と一緒に遊び、「ちょっと難しいかな。次は玉をもっと上にあげてみて」「すごい。入ったね」「やったね」と会話も弾みます。触れ合いながら少しずつ互いを知り、親しみを感じます。幼児は5年生への尊敬や憧れを感じ、優しく教えてもらった体験を、園に戻ってからの小さな子に対しての関わりに生かすようになります。



お別れの場面では手を握り合ったり抱き合ったり、笑顔がいっぱい。5歳児が入学したときには5年生は6年生になります。いろいろな小学校に入学してもこの交流の体験は生かされています。

### 1月～2月 5歳児と1年生との交流活動の事例

	幼児	児童
活動名	もうすぐ1年生	学校って楽しいよ・学校生活の様子を教えよう(生活科)
ねらい	授業体験を通して、就学への期待をもつ。 1年生と関わり、親しみや憧れの気持ちをもつ。	幼児との関わりを通して思いやりの心や態度を養う。 新2年生になる自覚をもつ。



1年生の教室で、1年生と一緒に授業を体験します。机と机を合わせた座り方は、互いの顔が見えるので安心して幼児と児童が名前を呼び合い、言葉を交わすことができました。顔を見合わせられる座席はスタートカリキュラムにも生かされます。



1年生が国語の教科書を読んでくれました。「1年生になったらこんな勉強をするんだ」と幼児は興味津々に聞き入ります。1年生のまねをして読んでみたり、ランドセルを背負わせてもらったりすることで、小学校への期待と安心感をもつことができました。幼児に接することで1年生は「もうすぐ2年生になる」という自覚も芽生えます。



# の具体的事例

## 3 小学校の人・もの・ことに関わる体験「きらめき体験プログラム」

### ～小学校の施設や行事を活用し、人・もの・ことに関わり憧れを膨らませる体験～

幼児が小学校を訪れて行う体験や小学校教員が就学前教育施設を訪れて行う体験を通して、小学校生活への期待や憧れの気持ちを膨らませます。

#### 校庭での遊びの事例

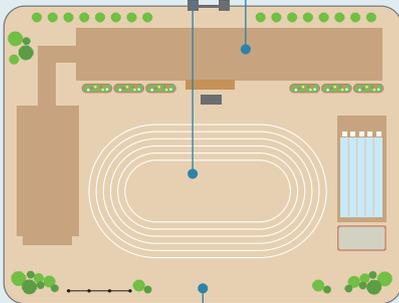
活動名	広い校庭で遊ぼう
ねらい	校庭で思い切り体を動かす心地よさを感じ、小学校生活に親しみを感じる。



就学前教育施設から小学校に連絡を取り、校庭が空いている時間を打ち合わせて訪れます。幼児は校庭の広さに驚いて走り回ったり、小学校のボールを借りてボール遊びをしたり、小学生のまねをしてかけっこにも挑戦したりして思い切り体を動かして楽しめます。芝生の校庭でははだしになって「チクチクしてすぐいたい」と大喜びでした。「チャイムが聞こえたら集まるんだって」「給食のいい匂いがしてきた」等、小学校生活の様子を知る機会にもなります。

#### 小学校の施設や教員に触れる事例

小学校施設イメージ



活動名	わくわく図書館
ねらい	学校図書館に親しみをもち、学校司書と手遊びをしたり読み聞かせを聞いたりして小学校生活に興味・関心をもつ。



小学校の先生と出会い、本を見るとき約束事を聞きます。読み聞かせを聞いたり、興味のある本を自分で選んで見たりします。

活動名	学校探検
ねらい	小学校の先生の案内による校内見学を通して、小学校の環境に親しむ。



小学校の校長の案内で保健室や校長室、音楽室や1年生の教室等を巡ります。先生の話の聞いたり、質問をしたりして小学校の様子を知ること、小学校入学への不安が減り、幼児には安心感や就学への期待感が生まれます。

#### 小学校の施設や行事に触れる事例

活動名	学習発表会などの見学・参加
ねらい	小学校の行事に参加し、小学校の雰囲気に触れながら小学校生活への期待を膨らませる。



小学校のお祭りに幼児がお客さんとして参加し、行事の雰囲気を楽しめます。園に戻ってからの遊びが豊かになるきっかけにもなります。

展覧会などの行事を見学し「小学校ではこんなことをするんだ。すごいな」と関心をもって見入ります。

働く自動車写生会に画用紙とクレヨンをもって参加し、思い思いに描きます。小学校の先生に「すごい消防自動車がかけてるね」と声をかけられ、幼児は誇らしげです。

## ～小学校の生活や学習の理解啓発を図る保護者会や情報発信等～

就学前教育施設の保護者が感じる入学に向けた不安や疑問を軽減し、小学校生活への見通しをもてるよう理解啓発を図ります。

## 小学校教員を招いての保護者会や座談会

充実した園生活を過ごすことが小学校の生活や学習につながることを理解し、家庭での子どもへの関わり方を考える。

## 保護者会の内容例

- ・園の生活から小学校の学習や生活に幼児がスムーズに移行していくために、家庭でできることは何か
- ・入学後のスタートカリキュラム、合科的な学習や生活科のねらいや内容について
- ・保護者が感じる不安や疑問を出し合い、一緒に考える 等



連携する小学校の校長を、園に招いての保護者会

## 園便りなどによる情報発信

## 情報内容例

- ・小学校との交流活動のねらいや活動の様子
- ・『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を手掛かりにした、園での幼児の育ち 等

## 「交流活動」の計画案を就学前教育施設と小学校とで作成しましょう!

交流活動は、幼保小が合同で行う保育及び授業です。

活動のねらいと経験させたい内容を明確にし、どのように展開するのか、という計画案(指導案)を幼稚園教諭・保育士と小学校教員と一緒に作成しましょう。

活動の目的を共通理解したうえで、幼稚園教諭・保育士も小学校教員も指導者の一人として幼児と児童の指導に当たることが大切です。

- 事前打合せをすることによって、幼稚園教諭・保育士と小学校教員が互いの教育・保育の特性を知ることができ、相互理解が深まり、連携の質が高まります。

- 事後には、幼児と児童の姿や変容について情報交換するなど、成果を確認します。

- さらに工夫・改善が必要な点などについても話し合い、記録に残します。この記録を次年度の担当者に引き継ぐなどして、成果を積み重ねていきましょう。

## 幼児と児童の交流活動計画案(様式例)

実施日	平成 年 月 日( )	実施園・学年	
活動名	就学前教育施設	小学校(教科等)	
実施場所			
ねらい	幼児	児童	
打合せ			
指導前	就学前教育施設	小学校	

## ■ 当日の活動の展開

時間	活動内容・活動の様子		指導上の留意点・環境の構成 ○就学前教育施設 ★小学校
	幼児	児童	

## ■ 事後の取組

	就学前教育施設	小学校
指導後の子どもの変容も		
記録・反省		

# 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。就学前教育施設においては、育みたい資質・能力について、遊びを通じた総合的な指導の中で一体的に育むよう努めるものとしています。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに幼稚園教諭・保育士と小学校教員が子どもの成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを理解することが大切です。

## 幼児教育において育みたい資質・能力

- ①豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- ②気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
- ③心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

### ■幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園教育要領及び保育所保育指針のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の園修了時の具体的な姿であり、保育者が指導を行う際に考慮するものです。



#### 健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。



#### 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。



#### 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。



#### 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。



#### 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。



#### 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。



#### 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもちかえりをもって関わるようになる。



#### 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。



#### 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。



#### 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより育まれ、特に、5歳児後半に見られるようになる姿です。5歳児だけでなく、3歳児、4歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識してそれぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことが大切です。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要があります。